

令和6年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連調査・講師人材養成事業 事前学習プログラム

在宅医療における多職種連携

豊中市健康医療部医療支援課 主査

高森 晃世



豊中市の概要

- 面積：東西6.0Km、南北10.3Km
36.6Km²（全城市街化区域）
- 人口：398,019人
65歳以上の人口102,958人
高齢化率：25.9%
- 平成24年度中核市移行に伴い、保健所設置
- 医療施設数：病院：18
診療所：406*
歯科診療所：246*
薬局：175*
訪問看護ステーション：75*
(令和6年9月1日時点。*令和4年11月時点)

※「豊中市地域医療推進基本方針」
平成29年3月策定、令和6年10月改定。

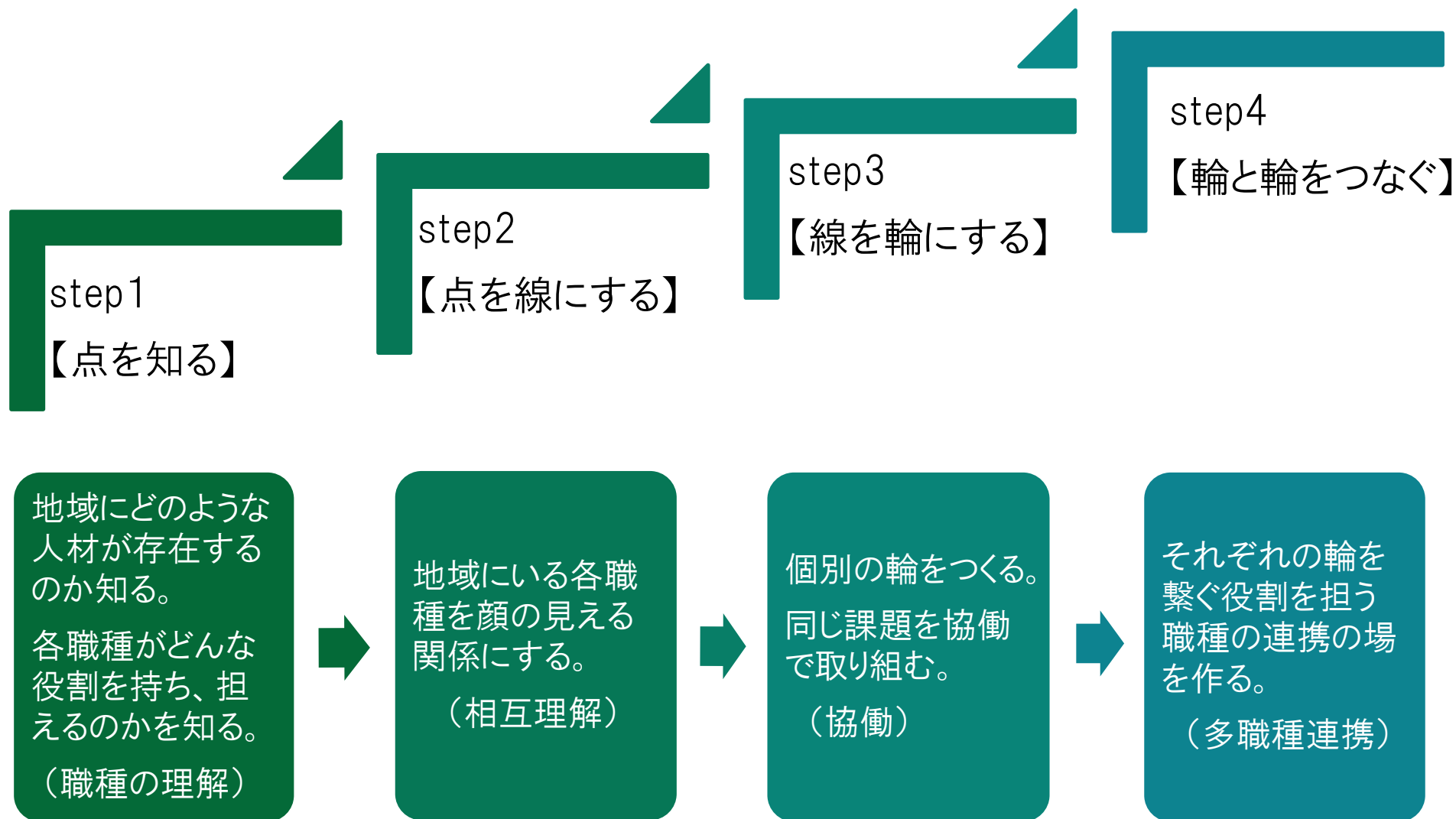


本日のお話

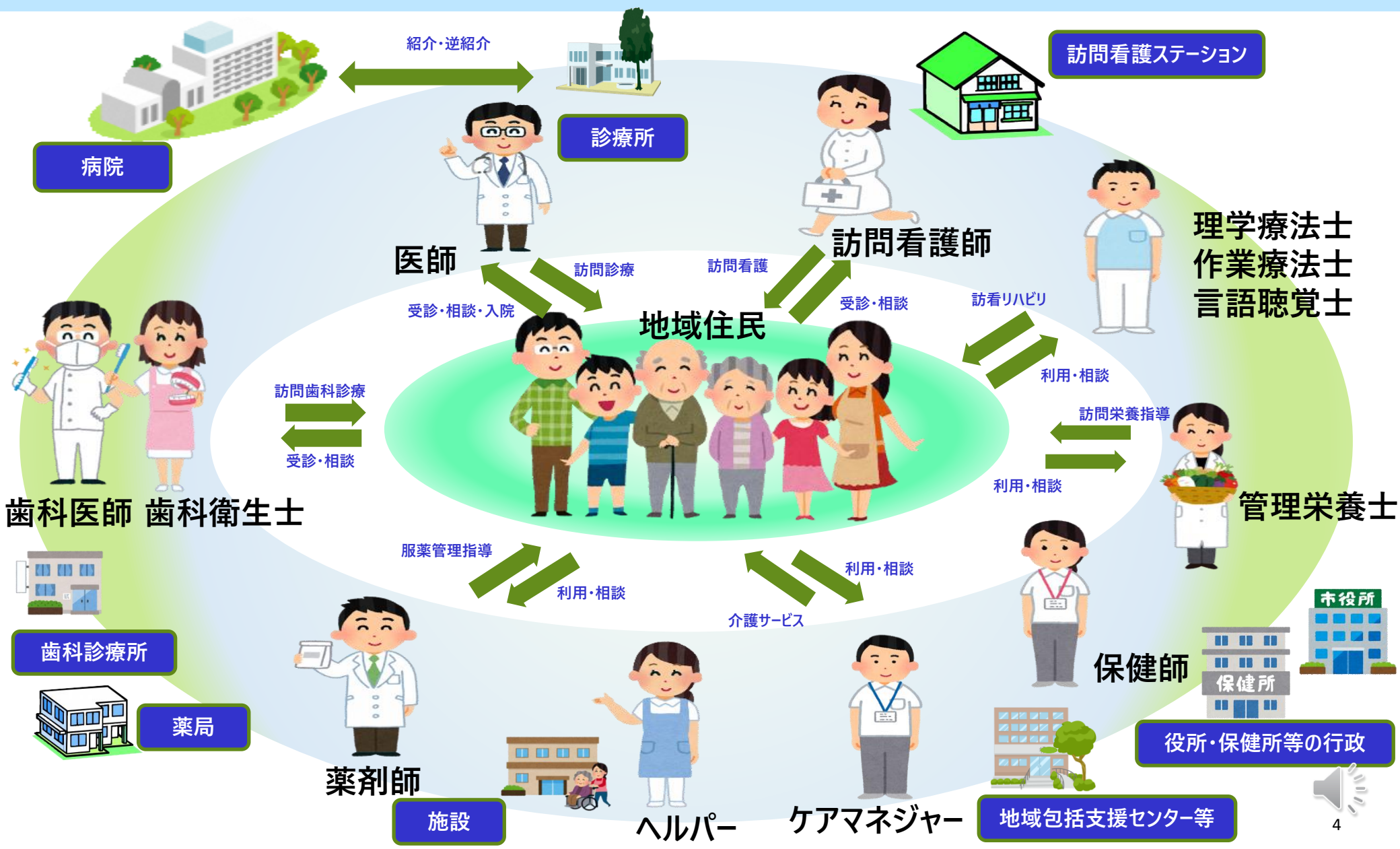
1. 多職種連携推進に向けた考え方
2. 豊中市における多職種連携の取り組み
3. 在宅医療連携を支える行政の役割



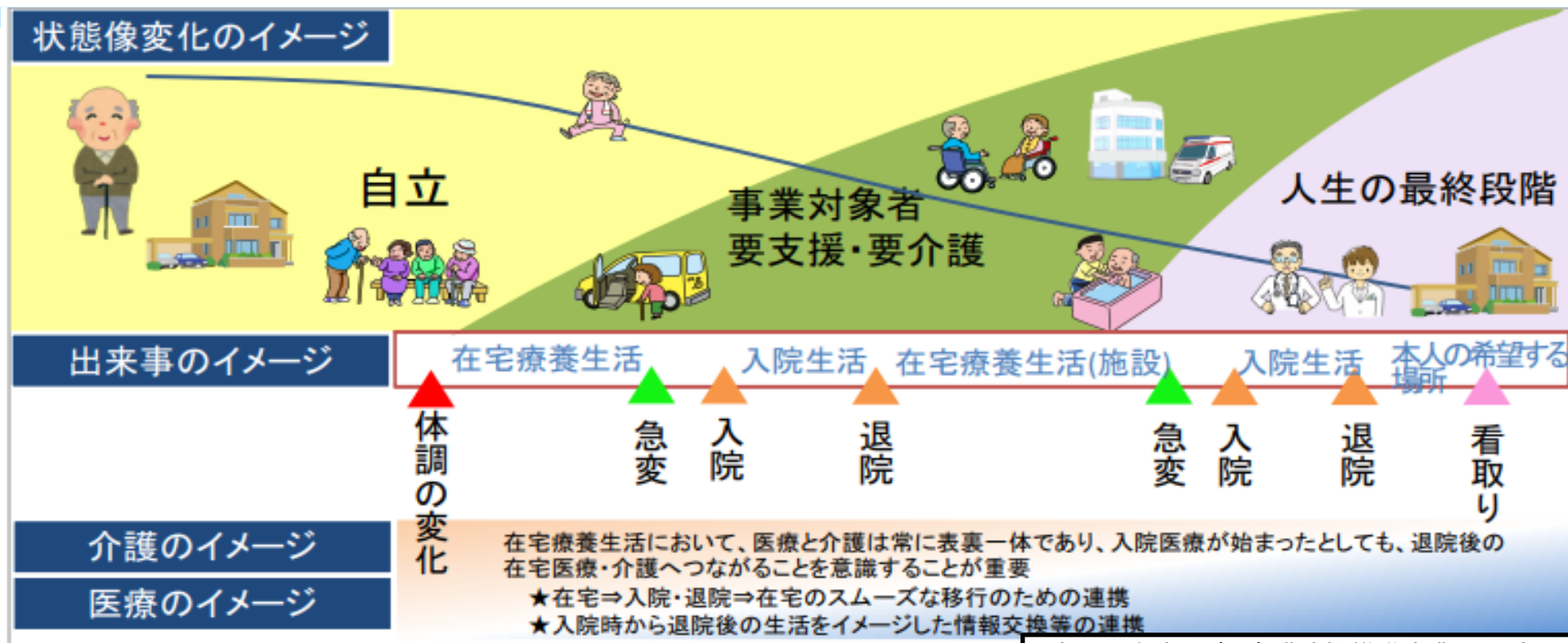
多職種連携推進に向けた考え方～多職種連携は何が難しい？～



step1～2:多職種連携の構図



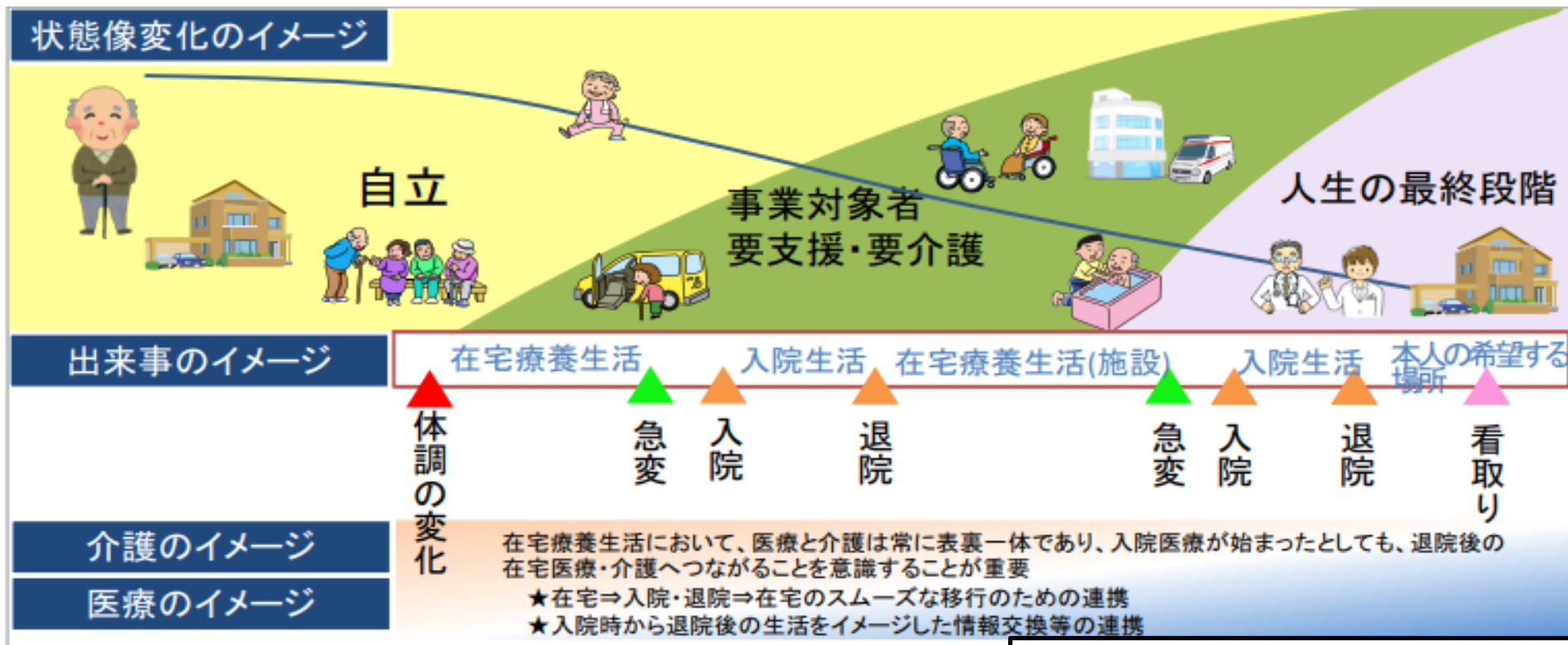
step3:高齢者の状態像の変化と住まいに合わせた多職種の輪



出典：在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer.3



step4:高齢者の住まいごとの多職種の輪をどうつなぐ？



出典：在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer.3

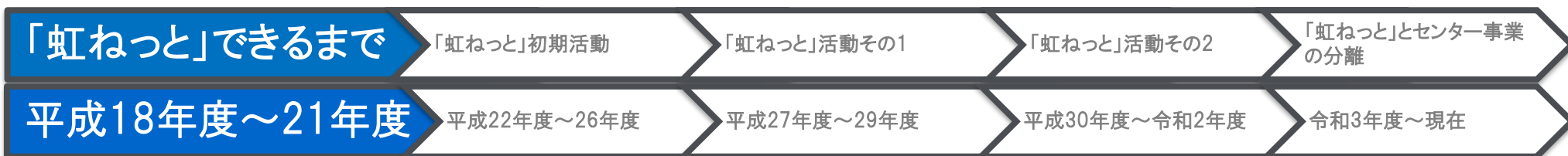


本日のお話

1. 多職種連携推進に向けた考え方
2. 豊中市における多職種連携の取り組み
3. 在宅医療連携を支える行政の役割



豊中市の歩み(「虹ねっと」ができるまで)⇒step1「点を知る」



始まりは「医療と介護を密接に連携できる仕組みづくり」を作りたいと現場のケアマネジャーが声をあげた。

平成18年度、保健所(府)主催の「在宅医療・ケア推進連絡会議」が開催される。

平成19年度から、豊中市・地域包括支援センターが「医療と介護連携の会」の事務局を務め、愛称を「虹ねっと」とした。
(この時の参画団体が7団体、豊中市の生活圏域が7つであったことから7色の虹になぞらえて命名した。)

参画団体

市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・市訪問看護ステーション連絡会
市介護保険事業者連絡会・地域包括支援センター連絡協議会・市関係部局(高齢福祉部局)



豊中市の歩み(「虹ねっと」初期活動)⇒step1「点を知る」

「虹ねっと」できるまで

「虹ねっと」初期活動

「虹ねっと」活動その1

「虹ねっと」活動その2

「虹ねっと」とセンター事業の分離

平成18年度～21年度

平成22年度～26年度

平成27年度～29年度

平成30年度～令和2年度

令和3年度～現在

「虹ねっと連絡会」は、医療と介護の連携の仕組みを作る。
「虹ねっと」は、作られた仕組みを広める役割とした。
虹ねっと参画団体の多職種が集まる会を「虹ねっと全体会」とした。

平成24年度:「退院前ケアカンファレンスマニュアル」を作成

平成25年度:「緩和ケアマニュアル」を作成

※「虹ねっと全体会」で作成したマニュアルを共有

参画団体

市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・市訪問看護ステーション連絡会
市介護保険事業者連絡会・地域包括支援センター連絡協議会・
市関係部局(高齢福祉部局・保健所・市立豊中病院等)

平成26年度「在宅医療の推進に向けた提言書」

豊中市の歩み(「虹ねっと」活動その1)⇒step1「点を知る」

「虹ねっと」できるまで

「虹ねっと」初期活動

「虹ねっと」活動その1

「虹ねっと」活動その2

「虹ねっと」とセンター事業の分離

平成18年度～21年度

平成22年度～26年度

平成27年度～29年度

平成30年度～令和2年度

令和3年度～現在

【その1】「虹ねっと連絡会取組計画」
課題別のワーキンググループ(WG)を立ち上げた。

「多職種スキルアップWG」

「退院前カンファレンス推進WG」
「市民啓発WG」
「ICT検討WG」
「認知症WG」

在宅医療提供体制の構築(主治医-副主治医制試行)
を目的に、7つ生活圏域内に2つのモデル地区で実施。



「多職種スキルアップWG」

1年目～2年目の取り組み

目的: 全ての職種が、自らに求められている役割を理解する。
方法: 医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護保険事業者連絡会への出前講座
結果: 他の職種の方々に説明することで自らの役割を見直すことできた。また、他の職種がどのような役割を果たしているのかを聞くことで新たな発見があり親密感が増した。

参画団体

市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・市訪問看護ステーション連絡会
市介護保険事業者連絡会・地域包括支援センター連絡協議会・**市病院連絡協議会**・
市関係部局(高齢福祉部局・保健所・市立豊中病院等)



豊中市の歩み(「虹ねっと」活動その1)⇒step2「点を線にする」

「虹ねっと」できるまで

「虹ねっと」初期活動

「虹ねっと」活動その1

「虹ねっと」活動その2

「虹ねっと」とセンター事業の分離

平成18年度～21年度

平成22年度～26年度

平成27年度～29年度

平成30年度～令和2年度

令和3年度～現在

【その1】「虹ねっと連絡会取組計画」
課題別のワーキンググループ(WG)を立ち上げた。

「多職種スキルアップWG」

「退院前カンファレンス推進WG」
「市民啓発WG」
「ICT検討WG」
「認知症WG」

在宅医療提供体制の構築(主治医-副主治医制施行)
を目的に、7つ生活圏域内に2つのモデル地区で実施。



「多職種スキルアップWG」

2年目～3年目の取り組み

目的: 多職種の業務や役割についても理解すること
で、チーム医療・チームケアにおいて、自ら職種が果たすべき役割がより一層明確に認識できるようになる。
方法: 「地域での顔の見える関係づくり」として、
生活圏域単位での研修会を開催した。
結果: 市内7つの生活圏域のうち、4つの生活圏域に
研修会を実施し、顔の見える関係づくりができた。

参画団体

市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・市訪問看護ステーション連絡会
市介護保険事業者連絡会・地域包括支援センター連絡協議会・**市病院連絡協議会**・
市関係部局(高齢福祉部局・保健所・市立豊中病院等)



豊中市の歩み(「虹ねっと」発展活動その2)⇒step3「線を輪にする」



【その2】「虹ねっと連絡会取組計画(平成30年度～令和2年度)」

「認知症WG」は解決する内容が多く、中長期で取り組んでいくこととなり「認知症部会」となった。
課題別の4つのWGは名称を変更し継続する。

「在宅医療・介護スキルアップWG」

「入退院支援WG」

「市民啓発WG」

「ICT推進WG」

※平成30年4月から非公開型SNS「虹ねっとcom」を導入

主治医-副主治医制の試行期間終了



「在宅医療・介護スキルアップWG」

目的：終末期において多職種協働が効率的・効果的に取り組める。

方法：慢性期病院の視察。

講演会：「人生最終段階における食支援」

1回目：リハビリでできること

2回目：歯科でできること

3回目：栄養士・訪問看護でできること

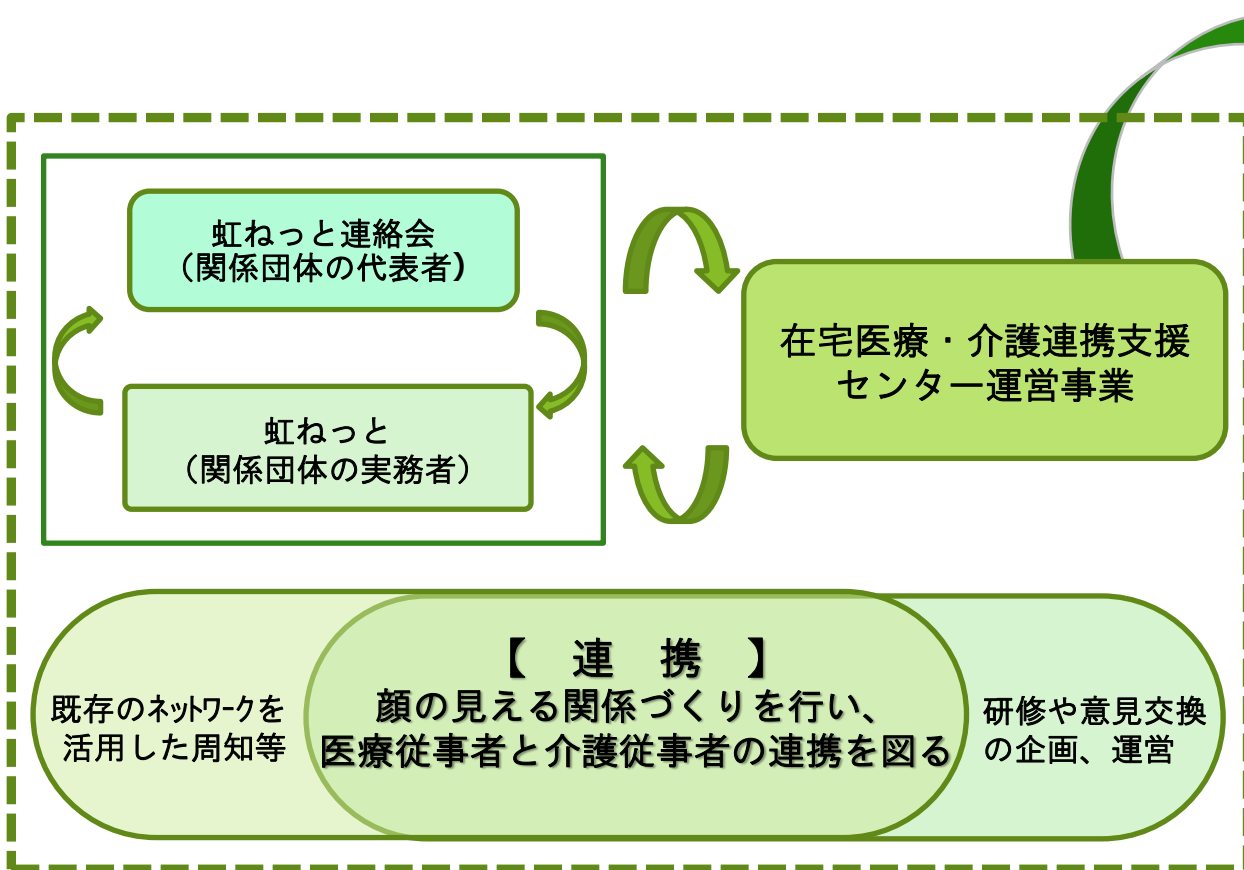
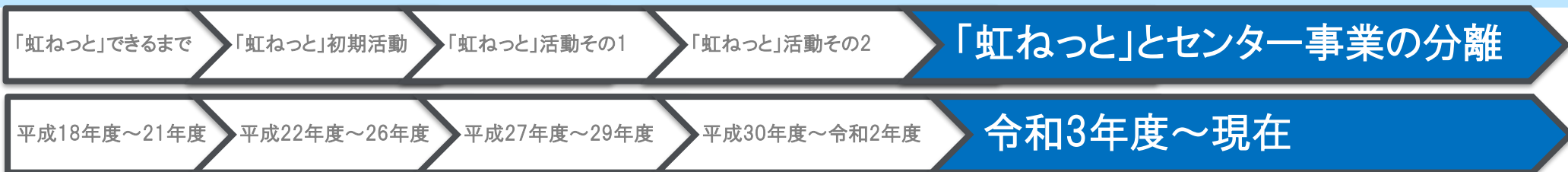
結果：多職種でACPIについて考え、企画したことで、他職種についての理解が進んだ。

参画団体

市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・市訪問看護ステーション連絡会
市介護保険事業者連絡会・地域包括支援センター連絡協議会・市病院連絡協議会・
市関係部局(高齢福祉部局・保健所・市立豊中病院等)



豊中市の歩み(「虹ねっと」とセンター事業の分離)⇒step4「輪と輪をつなぐ」



「看-看連携の会」 立ち上げ

【立ち上げの背景】
看護職は、自宅・医療機関・施設等
様々な場で活躍しているが、活躍の
場が違う。多職種の輪をつなぐキー
パーソンの役割を担っているため
に、市内の看護職の『横つながり』
が連携強化に寄与する。

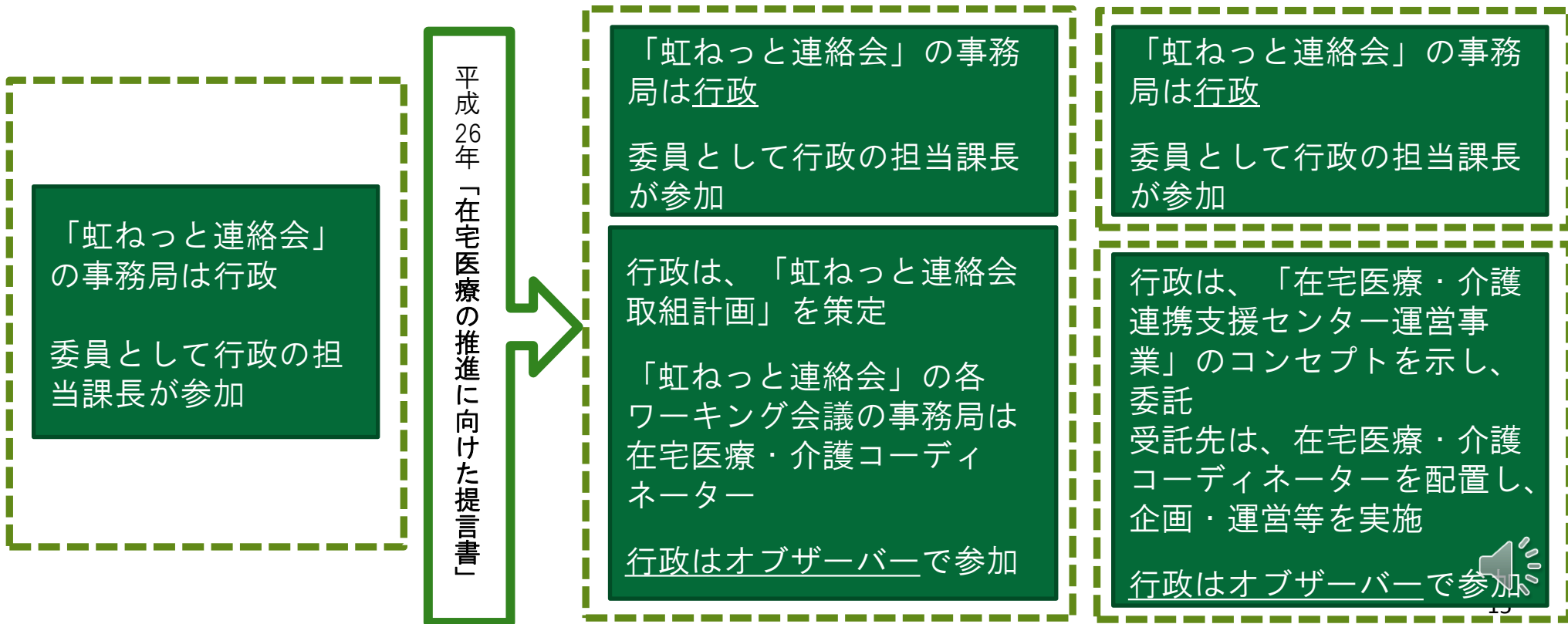
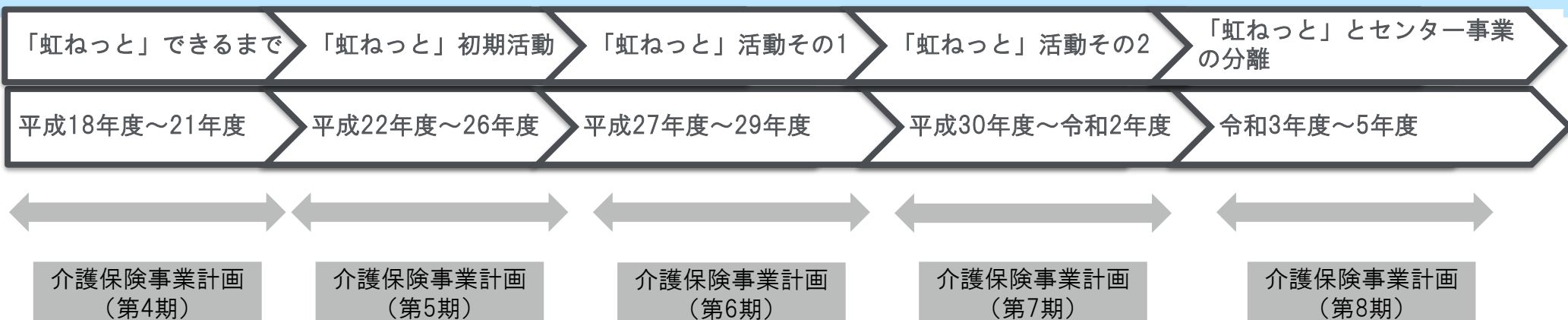


本日のお話

1. 多職種連携推進に向けた考え方
2. 豊中市における多職種連携の取り組み
3. 在宅医療連携を支える行政の役割

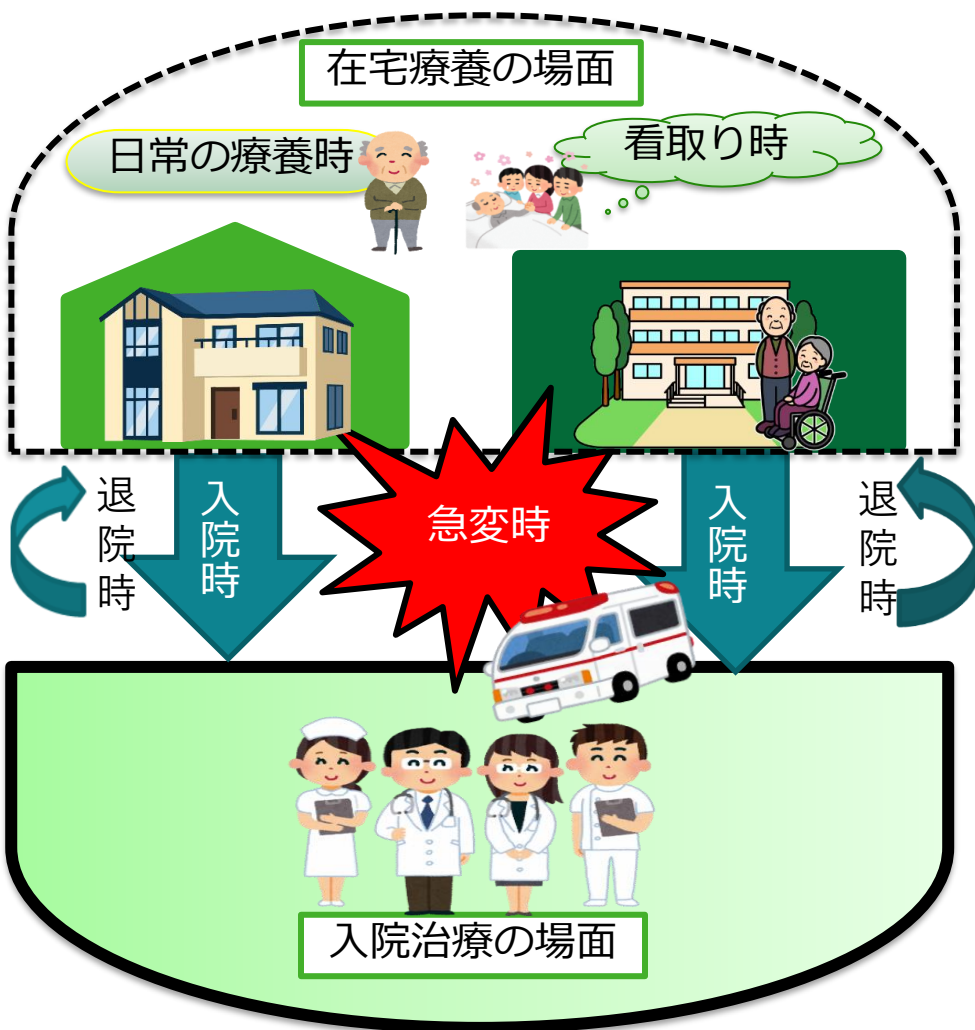


行政のかかわり



在宅医療・介護連携支援センター運営事業のコンセプト

豊中市高齢者福祉計画・介護保険計画の基本目標 『一人ひとりの状況・状態に対応した支援の実現』



暮らしの場面・各時期ごとに大切にしたい視点

在宅療養の場面

日常の療養時	看取り時
<u>再発・重症化を予防する</u> <u>安定的に暮らし続ける</u> 多職種による在宅療養支援チームの構築（情報共有と専門性を活かした支援）	<u>最期まで暮らし続ける</u> <u>希望する場所で最期を迎える</u> - ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発 - 看取りに関する知識の向上

入院治療の場面

入院時 （緊急時を含む）	退院時
<u>正確な情報をスピーディに提供する</u> 情報提供ツールの効率的・効果的な活用	<u>多職種による在宅療養支援チームと連携を図る</u> ケアマネジメントの力向上



在宅医療・介護連携支援センター運営事業の仕組みと内容

庁内の実務担当者会議（高齢福祉担当課・市保健所）

委託

医師会

（コーディネーター：医師・訪問看護師）

委託

歯科医師会

（コーディネーター：
歯科医師・歯科衛生士）

委託

薬剤師会

（コーディネーター：
薬剤師）

委託

訪問看護ST
連絡会

（コーディネーター：
看護師）

在宅医療・介護
スキルアップ
WG

ACPスキルアップ
WG

入退院・入退
所支援WG

ICT管理WG

相談窓口

再委託

訪問看護ST
連絡会

相談窓口

地域住民研修

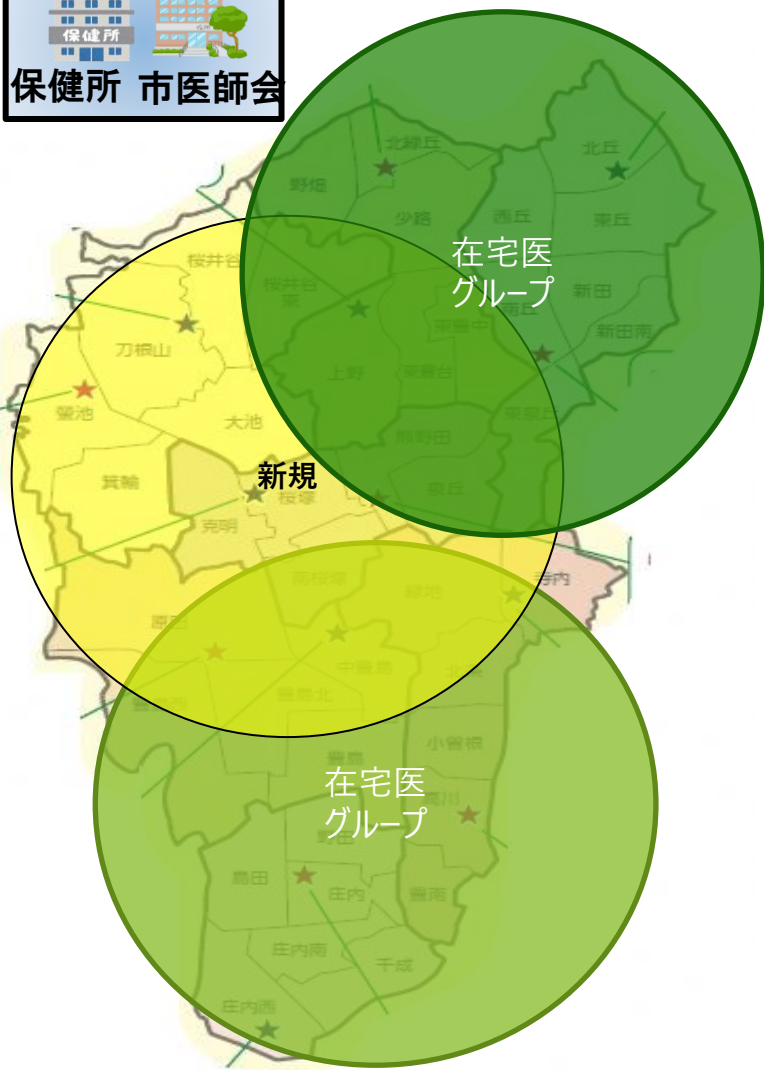
看-看連携の会

市保健所はオブザーバー参加（伴走支援）



豊中市がめざす在宅医療連携体制のカタチ「豊中モデル」

在宅医療の拠点



1 層目：在宅医グループの医師



- 外来と訪問診療を両輪で行っている医師をグループ化し、グループ内の医師が訪問診療ができない場合に補完する。
- 地域で訪問診療を行っていない診療所の医師から訪問診療を求められた時に対応する。
(診-診連携)
- 拠点は、在宅医グループの支援をする。

2層目：他科診療所の医師



- 在宅医グループ内にはない診療科をサポートする。（例：皮膚科、眼科、精神科など）
- 拠点は、地域でサポートできる他科診療所の情報を提供する。

3層目：多職種（歯科医・薬剤師・訪問看護師など）



- 医師の求めに応じて在宅療養中の患者のサポートをする。
- 拠点は、地域でサポートができる歯科診療所、薬局や訪問看護STの情報を提供する。



4 層目：サブアキュート病床を持つ医療機関

- 在宅療養中の患者が入院加療が必要になった時に受け入れる。（病-診連携）
- 拠点は、サブアキュート空床情報提供システムを運用する。



まとめ

1. 多職種連携は、「相互理解」から始まり、共通の課題を「協働」で取り組むことで連携強化できる。
2. 多職種連携の輪をつないでいくためには、同職種の『横つながり』がキーとなる。
3. 行政は、先導するのではなく、また、丸投げでもない、伴走支援の役割を担う。

